

茅野市美術館 つなぐ美術展「茅野市美術館サポーターがつなぐ みんなの収蔵作品展」
展示作品リスト 【テーマの紹介】《サポーターからの一言》付き

会期：2025年8月7日～8月31日 主催：茅野市美術館

No.	作者名	作品名	制作年	寸法(単位:cm)	技法	材質	備考
-----	-----	-----	-----	-----------	----	----	----

【この地の自然と作家たち】

茅野市美術館は、地域にゆかりのある作家の作品を収集・展示しています。このコーナーでは、見て頂きたい茅野市やその周辺の地域の自然や文化、歴史に関係のある作家の作品を紹介します。
私たちサポーターが話し合い、選んだ作家は、8人。この地の代表的な風景や、懐かしく、優しい自然の中の営みを描いた作品や、この地の歴史を反映した独創的な建築作品などを集めました。いずれの作品も、この地に寄せる思いがこもった作品ではないでしょうか。

1	田村 一男	枯野	1973	89.4×145.5	油彩	キャンバス	《サポーターからの一言》 この作品は小学生のみなさんをお迎えして、対話による作品鑑賞のファシリテーターをした初期の頃の作品でした。 薄茶色の作品のなかからみなさんの目には何が映ったでしょうか？一緒に楽しんだ記憶がよみがえってきます。(茅野市美術館サポーター O.T)
2	小堀四郎	親湯温泉への道	1946	64×79	油彩	キャンバス	《サポーターからの一言》あそこを曲がると親湯が見えてくる。秋も深まって、空が青くて高いなあ。(茅野市美術館サポーター K.G)
3	小堀四郎	冬の花火(諏訪湖)	制作年不詳	60.7×73	油彩	キャンバス	
4	宮坂正木	夜明け	制作年不詳	77×173	七宝		《サポーターからの一言》秋から冬、明けゆく…諏訪湖？(茅野市美術館サポーター M.S)
5	中尾 彰	麓の村	制作年不詳	91×73	油彩	キャンバス	
6	中尾 彰	庭にて	1981	136.5×103	油彩	キャンバス	《サポーターからの一言》 四季を感じさせる緑豊かな蓼科の自然(花・木)の風景。油彩でありながら、パステル画のような色彩がとてもやさしくその世界にスッとひきずり込まれる。(茅野市美術館サポーター K.Y) 白樺の林を抜けてくる爽やかな風に抱かれてスケッチしています。(茅野市美術館サポーター K.G)
7	篠原 昭登	四月の車山	1979	130.3×162.1	油彩	キャンバス	
8	今井 敦	陽ざし	1994	162×130	油彩	キャンバス	《サポーターからの一言》 50年位前には農家の庭先のごくありふれた風景だったと思いますが、今の小学生は唐箕を見たこともないという意見が多々あった。鶏が餌をついばんでいる。季節は「陽ざし」という題名から春先でしょうか…(茅野市美術館サポーター E.M)
9	増田 彰久	神長官守矢史料館(設計:藤森照信)	1991	80×100	デジタルプリント		
10	藤森 照信	神長官守矢史料館スケッチ一式			鉛筆、ペン	紙	

【つながりを見つけよう】

たくさんの作品を鑑賞していると、よく似たつながりを感じることはないでしょうか。モチーフとなったもの同士の関係、作品と作品の関係…このコーナーでは、「つながり」をテーマに作品を選び、「つながりを見つけよう」と題しました。
母が子どもを抱く姿、人々が語りあう姿、寄りそう姿などが表わされた作品や、色や形が対のように思える作品などを展示しています。
このコーナーだけでなく、本展覧会のなかで、様々な「つながり」を探して、楽しんでみませんか。

11	宮坂 了作	地震波(陸)	1984	130×97	アクリル	キャンバス	《サポーターからの一言》 キャプションがなかったら、この作品が何を表現しているかどんな想像をしますか？もし、子どもたちだったら？この作品を見ながら、皆さんも考えてみて下さいね。(茅野市美術館サポーター O.T)
----	-------	--------	------	--------	------	-------	--

12	宮坂 了作	地震波(海)	1984	130×97	アクリル キャンバス
13	松樹 路人	去りゆく夏に―静かな対話	2001	182.0×227.0	油彩 キャンバス

《サポーターからの一言》
ふたりの間にはどのような時が流れているのか…向き合うふたりの見つめる先は…静かに対話する二人の間柄は…鑑賞者それぞれに新しい物語が始まる。(茅野市美術館サポーター S.M)

17	富永 直樹	アンデスの子守歌	2000頃	60×35×30	樹脂
----	-------	----------	-------	----------	----

《サポーターからの一言》
人の親子、アルパカの親子が牧歌的な田舎道を散歩する風景に忘れかけていた懐かしい日本の風景が重なります。忘れかけていた、たくさんのことを語りかけてくれているような良作です。(茅野市美術館サポーター Y.T)

【タイトルをつけてみよう】

作品を鑑賞するときに、作品のタイトルなどが書かれているキャプション(説明文)を読んでいる方が多いと思います。でも、もし「自分がタイトルをつけるとしたら？」と考えながら鑑賞したらどうでしょうか。
2015年、メイメイアートvol.1で、私たちは作品のタイトルを考えながら鑑賞することの楽しさを経験しました。タイトルを考えながら作品と向きあう、そんな鑑賞スタイルの楽しさをみなさんにも体験していただきたいと思い、あえてキャプションをつけないコーナーをつくりました。実際のタイトルは、このコーナーの最後に貼ってあります。

A	矢崎 博信	農夫働くの図	1939	130×161.5	油彩 キャンバス
---	-------	--------	------	-----------	----------

《サポーターからの一言》
農夫群の衣類が軍服のような供与された物に見える。一方、いかにも農夫らしい牛に乗る人物は、極端に矮小化されている。中央の農機具が砲台に、赤い果実が砲丸になぞらえたとすれば、鳥の一羽が墜落してゆくのと関連付けられる。世相が軍国プロパガンダに陥るなか、帰郷し素朴な田園風景画家に擬態しようとしたが、生来のシュルレアリスムが露呈しどこか反戦的な内容の作品となった。(茅野市美術館サポーター K.I)
好天の秋の収穫風景。透明感のある、絵のなかに吸い込まれそうな平和な光景です。あの時代の、作家の憧れだったのかも考えると、胸が痛くなります。(茅野市美術館サポーター K.K)

B	小川正波	顔	1963	20×23×28	工芸(鍛鉄)
C	富永直樹	僕らの遊び場	1993	45×44×41	ブロンズ

《サポーターからの一言》
美術館に来た子どもたち「あっ！タヌキ！」私にはネコに見える。あなたはどうか？楽しいね。(茅野市美術館サポーター T.H)

D	吉川秀山	霜晨	1948	153×64	紙本彩色
---	------	----	------	--------	------

《サポーターからの一言》
この「霜晨」は「リス」が「山葡萄」を食べに来た瞬間をいかにも寒く霜が降りた朝を日本画らしい色彩で描いている。今にも次の枝に飛び移ろうとしている「リス」がとても愛らしく、紅葉した山葡萄の葉の鮮やかさも全体を引き立たせている。(茅野市美術館サポーター Y.W)

E	木之下晃	アルフレッド・ブレンデル	1974	72×103	ゼラチンシルバープリント
F	木之下晃	小澤征爾	1974	103×72	ゼラチンシルバープリント
G	岩波 昭彦	フィフス・アベニュー	2000	210×170	紙本彩色 銀箔

《サポーターからの一言》
この作品には人がほとんど描かれていないのに、どうして都会の人の多さを感じるのだろうか。(茅野市美術館サポーター S.I)

H	向山伊保江	風の行方	2013	143×156	七宝
---	-------	------	------	---------	----

《サポーターからの一言》
円の中右上は風が吹いている感じ。下は虹？真ん中の茶色の部分はカーブミラーに写った家が並んでいる風景？色々な見方があり素晴らしい作品だと思います。(茅野市美術館サポーター E.M)

I	松澤宥	この一枚の白き和紙の中に(白鳥の歌)	1976	90×90	印刷 紙
J	岩波 昭彦	Untitled,01,05	2004	210×60	紙本彩色 金銀箔

K	津金 孝邦	森鷗外のうた(うた日記)	2007	68×70	紙本墨書
---	-------	--------------	------	-------	------

《サポーターからの一言》

毛筆で書かれた文字の造形を楽しむ。読み方が分かったら、それを胸に置きながらその心情に触れてみてください。(茅野市美術館サポーター Y.O)

L	長田平次	土用波	1961	61×12×17	ブロンズ
---	------	-----	------	----------	------

《サポーターからの一言》

どっちが前やら後ろやら。どこからでもお楽しみください。どんなふうに見えますか？何かが隠れている!?(茅野市美術館サポーター Y.O)

【見て、話して、発見！】

茅野市美術館では、お話をしながら作品を鑑賞する「対話による作品鑑賞」を2008年度より行なってきました。

誰かと一緒に話をしながら作品を鑑賞していると、同じ作品を見ているはずなのに、見ているところや感じていることが違っていたり、似ていたりすることがあります。そこから新たな発見をし、作品の見え方が変わってくることも。

このコーナーでは、話しながら鑑賞することでより面白く感じられるかもしれない作品を選びました。周囲の人と話してみたり、自分の身近な人だったらどんな想像をするかなどをイメージしながら、鑑賞してみてください。

20	矢崎 博信	作品(怪物と女体)	1938頃	65.5×91	油彩 キャンバス
21	矢崎 博信	江東区工場地帯	1936	97×130	油彩 キャンバス
22	細川 宗英	王と王妃 S No.1	1974	60×40×20	ブロンズ

《サポーターからの一言》

この作品の中にある作者の深い愛のかたちを感じました。朽ち果てていくなかにも王妃のやさしい表情と未来を見つめている瞳に、永遠の愛の表現を感じています。(茅野市美術館サポーター Y.T)

23	柳澤香樹	大自然の躍動	1988	85×45	皮革
24	篠原昭登	花	1976	72.7×53.0	油彩 キャンバス

《サポーターからの一言》

篠原先生は里山の絵をたくさん描きましたが、私はこの花の絵が一番好きです。絵筆の跡に勢いが感じられ、まさに、今、描きあげられたみたい。
触ったら絵の具が指についてしまうかもしれない、見るたびにそう思わずにいられない一枚です。大好きです。(茅野市美術館サポーター K.K)

25	平野杏子	高原の花(2)	制作年不詳	60.6×72.7	グワッシュ、油彩 紙
26	野村千春	野菊	1994	91×73	油彩 キャンバス

《サポーターからの一言》

可憐な花に色々な想いがこめられているような。そして、花瓶の部分に犬がいる！？(茅野市美術館サポーター T.H)

27	中澤高千夫	地平線を通して	2001	72.8×90.9	油彩 キャンバス
----	-------	---------	------	-----------	----------

《サポーターからの一言》

対話による作品鑑賞が終わった後、「今日は久しぶりにとても癒されました」参加者の方がおっしゃった言葉に、新鮮な感覚と安堵感が広がる。絵画の印象は人それぞれ…それが楽しい。(茅野市美術館サポーター S.M)

28	小川 正波	夜明けのリズム	1976	55×58×42	工芸(鍛鉄)
29	藤森汎	顔 阿蘇人	2000	45×25×20	ブロンズ